

事業報告書

Rika Kindergarten



☆ 事業状況

ノーベル経済学賞受賞者のジェームズ・ヘックマン米シカゴ大学教授は、今後日本が優先的に取り組むべき政策分野として、教育改革を示し警鐘を鳴らしております。特に質の高い幼少期教育の提供が重要だと指摘し、人的資本の基盤作りが人口問題への対策としても有効であると発言しています。身近な視点では、女性の社会進出を背景に、多くの小規模保育施設や認定こども園への幼稚園からの移行が進み、就園児獲得の競争は益々激化しております。このような社会情勢ではありますが、当園は要求される教育ニーズに対応し教育機関としての役割を果たすことが責務であると考え「教育の梨花幼稚園」として日々活動しております。幼児期の教育は、人生の成功にとって重要なスキルや創造性を養う教育活動を行なうべきであると思います。更にその教育活動の成果は、はっきりと実感できるものでなければなりません。当園は自らの教育活動の方向性を見失うことなく未来を担う子ども達が将来活躍できるよう、必要な教育を積極的に行うことで、地域社会の信頼を得るよう考えております。保護者の皆様をはじめ、関係者各位の一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

☆ 平成 29 年度に実施した活動についての検証は以下の通りです。

1. 園児募集について、昨年の園児募集の状況に鑑み、新たなチャンネルでの募集活動を実施し、近隣の小規模保育施設等から、一定の反響を頂いております。今後も幼児期教育の重要性を強調し、当園の強みである「作法教育」等を示し、正確に理解されるよう努力します。
2. 保護者に対して、「生きる作法を身に付ける」に注目し、具体的に伝えることとし、特に、挨拶の質にこだわり、園児一人一人にアプローチし確実に指導するよう徹底しました。成果発表の場として、作法参観を利用し教育成果向上を形で示したことにより、良い評価が得られています。更に、あらゆる方向から指導を試み、定着度を高めます。
3. 最近「子どもの声が出ない」と感じます。このことは、子ども自身の自信の無さの表れだと考え、この点を解消すべく、自信をつけさせるよう指導を行ないました。各場面での成功体験が自信に繋がり、一定のレベルに達していると考えます。今後、子ども達の自己肯定感を高め、「～ができた！」を実感させ全ての子ども達に定着するよう指導致します。
4. どんなに立派な教育を行ったとしても、「落ちこぼれ」が出ては行けません。そこで、全学年に対し指導を徹底し、「落ちこぼれ」を出さないようあらゆる方向からの指導方法を検討し実行しております。「やればできる」を実践し、「できた～!!」を感じさせることで、「生きる力」を育てたいと考えます。子どもを育てることができる幼稚園であることを保護者の皆様に実感して頂きたいと考えております。
5. その他、「たくましさづくり」「優しい子に育てる」「マーチングの完成度を向上し維持する」等、従来通り継続して指導の強化に努めます。

以上の内容を念頭に、全教職員が一丸となって取り組み、教職員個々の専門性を高め、プロ集団化を強化に努めるよう努力を重ね更に研鑽して参ります。

平成 30 年 4 月 25 日